

## 2023年度上野千鶴子基金助成金最終報告書

1. 助成対象事業	SDGs の諸課題解決に向けた活動
2. 事業の区分	一般プロジェクト
3. 氏名/団体名	しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄
4. 事業名	「揺らぐ離婚制度～離婚後共同親権を考える」啓発事業
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2023年9月 ～ 2023年10月

### 7. 事業の目的

離婚後の共同親権は、子どもの権利を守るという大義名分のもと拙速に推し進められているが、多くのシングルマザーが婚姻時に精神的、経済的、身体的そして性的DVを受けていることが調査でわかっており、その実態は社会に共有されているとは言い難い。このような状況で共同親権が制度化されてしまうと、離婚後も支配が続くことになり、つまりは子の福祉を害することに通ずる。長年多くの当事者の声を聞いてきた私たちは、危機感を持ってこの問題に取り組んできたが、国の動きが加速してきた今、改めて共同親権制度について精通している憲法学者の木村草太氏の講演をとおり、こどもの権利の視点からこの問題を社会に投げかけ、理解を深めることによって共同親権の制度化を阻んでいくことを目的とした。

### 8. 実施内容

日時：2023年10月14日（土）午前10時30分～12時30分

場所：沖縄県男女共同参画センターていりる 1階ホール

講師：木村草太（東京都立大学法学部教授、専門は憲法）

講演会テーマ：『憲法から子どもの権利を考える』～意見表明・家族・学校～

実施方法：講師来場講演・ウェビナー配信・後日録画放映（申込者のみ）の3方式で実施

パネル展示：会場にA0サイズ10枚を展示及び、ウェビナー視聴者向けにスライドショーを投影

### 9. 事業の成果と自己評価

本事業の具体的な実施結果として以下のような参加人数であった。

- ・会場参加者数 35名（申込40名）
- ・当日オンライン参加者数 97名（申込176名）
- ・後日録画視聴者人数 78名（視聴回数158回）

なお、県内参加者は全体の38.0%=80名であった。

実施後の参加者のアンケート結果（具体的な数字・内容は添付資料参照のこと）としては、とてもよかった（70.4%）、よかった（28.2）、あまりよくなかった（1.4）との評価であった。

沖縄県では、共同親権問題に対し非常に関心が低いという状況にあり、当団体では危機感を抱えていた。国のパブリックコメント募集に合わせ、23年1月に当団体が沖縄県民向けに実施した木村草太氏オンライン講座「離婚後共同親権を考える」の企画時以前からも、全国の推進派がDVで子を連れて逃げた母親を「連れ去り」「奪略」と表現することなどから、当事者が抱える不安感と共同親権を良いものとして報道するマスコミや世間とのギャップは非常に大きいものがあった。当事者の不安感とはどのようなものかは、2022年7月に当団体が会員向けにおこなった共同親権制度に関するアンケート調査結果において8割以上がDV被害を経験していたことから重く受け止めなければならない。

一方、県内の推進派の「街宣活動」は、公共の場で別居親である男性が泣きながら「共同親権がないから子どもに会えない」と訴えるという非常にインパクトのあるものであることや、また、SNS上では、記事をシェアしたりするだけで、見知らぬ推進派から攻撃の的とされることが多発したことから、ボランティア団体である当団体は「反対」を表明することが難しくなっていた。

このような状況の下、県内で活動する熱意ある子ども支援者や、学校関係者、医療関係者に対し、正確に共同親権への理解を深めたいとの思いから、本事業の企画を立て、また、当団体で負担する予定であった講演会経費を貴上野千鶴子基金に応募申請し、採択を得たことで、パネル作成や、ハイブリッド配信などを実現することができたことの意義は大きい。前述の参加者アンケート結果からも満足度は非常に高く、当事業はある一定の成果はあったものと感じているが、同時に課題もあったと受け止めている。

最後に、今後の課題と結論として次の点を挙げておきたい。まず、「参加人数と周知」に関してであるが、県内参加者は210名中38%と、まずまずの割合であった。しかし、上述したような予測される困難があったとしても、子どもを持つ当事者の参加数を伸ばすことができなかつたことは事実としてしっかりと受けとめたい。

結論として、私たちは、これからの法制審議会の動向を注視しつつ、共同親権制度の知識や関心を県内で広く高めていくにはどのような方法があるのかを模索すると同時に共同親権によりその生活を脅かされる立場にあるシングルマザーや子どもたちの保護にできる限り努めていくということに尽きる。

## 10. 成果物 提出成果物として

- ・チラシ「憲法から子どもの権利を考える」1枚
- ・告知記事1枚（沖縄タイムス10月4日）
- ・講演会記事1枚（沖縄タイムス10月31日原本）
- ・講師作成事前配布レジュメ1部
- ・DV防止アドボカシー展示パネル写真1部
- ・写真報告書1部（①会場(沖縄県男女共同参画センターにいる)当日朝 ②音響、ウェビナーセッティング(前日夜)、③パネル展示作業(前日夜)、④撮影セッティング(前日夜)、⑤受付から会場入り口付近 パネルセッティング(当日朝)、⑥講演会講師、⑦講演会講師
- ・アンケート結果（グラフ、別紙回答内容）

## 11. 団体HP

<https://www.facebook.com/smf.okinawa/>

<https://www.single-mama.com/council/member/しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄/>